

育児のちょっとアドバイス

日々の育児の中で、ほっとしたり、ヒントになるような言葉を、本の中から紹介していきます。書籍の貸出も行っています。

親というのは、あんまり賢い親になろうと努力する必要はないように思います。むしろ、肩の力を抜いて、「おろかでもいい、ダメ親でもいいんだ」ぐらいにお思いになったほうが、いい子が育つようにおもいます。ただし、ひとつだけお願いしたいことがあります。それは、ご自分のお子さんを「世界一いい子」だと思ってやることです。子どもにはいろいろな欠点がありますし、親の理想もあります。ですから、不満をもつのはあたりまえなのかもしれませんが、そういう欠点にはいっさい目をつぶって、「こんなにいい子が自分の手もとで育てくれるのは、ほんとうに親としてしあわせ」というお気持ちをもって、お子さんを見つめていただきたいのです。そうすれば、お子さんのほうで、そういうご両親の視線をしっかりと感じとって、自分の中にある力で、すこやかに成長してゆくだらうと思います。

「ボンキッキーズの101のメッセージ 一分間パパ・ママ学」より 深谷和子 著(株式会社文藝春秋 1998年6月発行)

～ほっと れもんていより大切なお知らせです～

2013年4月号よりほっと れもんてい通信が季刊誌(3ヶ月に1回の発行)となり、次号は7月の発行となります。引き続き皆様のほっとしたひととき、子育ての参考になる季刊誌を目指してお伝えして参りますので、今後どうぞよろしくお願い致します。

また、4月よりほっと れもんていのブログを公開しました。ほっと れもんていで開催している各種イベント等のお知らせなどはこちらのブログで随時新しいものに更新していきます。今までの通信の各コーナーも下記アドレスで閲覧できますので、どうぞお立ち寄りください。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

ほっと れもんていのブログ <http://lemontea-ayunoko.blogspot.jp/>

QRコード ⇒



ほっと れもんてい
(あゆのこ保育園内)
〒243-0032
厚木市恩名1丁目10番38号
電話・FAX: 046-222-6055
<http://www.ayunoko.ed.jp/>

ほっと れもんていは、
地域子育て支援拠点事業(ひろば型)
として厚木市より委託されています。

開設日: 月～金曜日 (祝日を除く)

開設時間: 9:30～16:00

11:30～13:00 はお休みとなります。

利用の際の予約や登録は要りません。

開設場所: ほっと れもんてい (あゆのこ保育園内)

13:00～15:00 は園庭でお子様と自由に遊んで頂けます。

お越しの際は、あゆのこ保育園の駐車場をご利用いただけます。

台数に限りがございますので、ご了承下さい。

地域子育て支援拠点事業(ひろば型)

ほっと れもんてい

2013年 春号 No. 36

(平成25年4月1日発行)

柔らかな緑と色とりどりの花に包まれる季節がやってきました。お子さまと一緒に散歩を楽しみながら、どうぞ気軽にお立ち寄りください。いつでも心よりお待ちしております。



育児のヒント

皆様の育児の参考にしていただけたらと、『育児のヒント』を記載しています。

今回は、あゆのこ保育園 町田和子園長です。

「幼児期に育てたいもの」

4月を迎え、あゆのこ保育園でも新たに27名のお子さんをお迎えしました。新しい年度の始まりです。先月は、就学を控えた年長児が、小学校への期待半分・不安半分・・・と、ちょっといつもと違う緊張感で残り少ない日々を過ごしていました。「日中は新しいランドセルをしょって喜んでいるかと思ったら、夜お布団に入ると、『お友達できるかな・・・』とポロッと涙を流す姿もあるんですよ」と保護者の方が教えてくださいました。卒園児が新しいランドセルをしょって、名札をつけて、誇らしげに園に遊びに来てくれるのが毎年の楽しみです。

就学に不安を感じているのは子ども達だけではなく、保護者の方にもさまざまなご心配があるかと思えます。園では毎年3月にクラス懇談会を開催し、進級後の新しいクラスでの保育について保護者の方にご説明していますが、その際に、主に3歳以上児クラスになる保護者の方からご質問がでるのが、「小学校にむけての準備はどのような形ですのですか?」というものです。中には、「文字の練習や算数などは?」という具体的なものもあります。「あゆのこ保育園ではそういうことはしていません。」とだけお答えすると、不安そうな表情をされます。就学に向けて何もしないというのではなく、文字の練習や算数の勉強よりも、もっと大切なことがあると考えているので、「幼児期には十分に遊ぶこと、それが小学校へ入学してから勉強に集中して向かう力になるのです」と申し上げています。でも、保護者の方には「遊ぶこと」と小学校へ行ってからの「勉強すること」が結びつきにくいようで、そのようなご説明では保護者の方の不安は解消されていないのかな・・・とも感じていました。

就学前の子ども達に身につけてほしい力とはどのようなものでしょうか? 毎年、保護者の方にどようにご説明したらいいか悩んできましたが、今年、当園の保育アドバイザーをお願いしている秋田喜代美先生より、とても貴重な資料をいただきました。家庭教育調査をもとに、「小学校入学前に身につけてほ

しい力」を、秋田先生をはじめとした専門の先生方が分かりやすく解説をしてくださっている小冊子です。その中に、幼児期に育みたい力として大切なのは「学びに向かう力」とありました。今年の3月の懇談会では、この冊子の一部をコピーしてお渡しし、保護者の方にご説明しましたが、その内容をかいつまんでご紹介したいと思います。

「学びに向かう力」とは、「自分の気持ちを言う、相手の意見を聞く、物事に挑戦する、自分の気持ちを調整するなどの力で、生涯にわたる学びの基盤になる力」で、幼児期に遊びに集中したり、いろいろなことに挑戦したりすること、また、興味をもったことに対して「なぜ」と疑問に思い、周りの大人に問いかけたりすることによって育まれます。遊びに没頭し、いろいろ工夫して取り組む姿勢は、学習に集中し、自ら興味・関心を持って学びを深める力につながるのです。ご家庭の日々の生活の中で、お子さんが集中して遊びこむ姿を見守り、またお子さんの話の「よい聞き手」になって、お子さんからの問いかけに丁寧に応じたりするなどして、子どもが自分で考えるような機会をつくってあげることが大切です。」

いかがでしたでしょうか？ 小学校にむけての特別な準備があるわけではないようです。例えば、毎日の生活の中で絵本をたくさん読んであげることが、お子さんが文字に興味を持つことにつながっていくのです。生涯にわたる学びの基盤になる「学びに向かう力」の芽はいたるところにあり、その芽は日々の生活の中で育まれていきます。そのためにも周囲の大人が、子どもと同じ目線でいろいろなことに興味を感じたり、一緒に共感したりしながら、お子さんとの関わりを楽しむこと、そのような何気ない関わりがお子さんの意欲や好奇心をうまく引き出していくコツかもしれません。

「幼児期から小学1年生の家庭教育調査」 <http://www.benesse.co.jp/iisedaikin/research/pdf/research22.pdf>

あゆのご保育園園長 町田和子

今月の絵本

～お勧め絵本のご紹介～



「リッコのおへや」

作: といかや

(のら書店 2008年 6月発行)

カンガルーの子ども、リッコはママのポケットから一度も出たことはありません。ある日、ママのポケットからコロコロと落ちたことをきっかけに、初めて外に遊びに行き、目を輝かせます。友達に誘われてお部屋に遊びに行ったり、みんなでお花見をしたり…。そうして楽しんでいるところにママがお迎えにやってくる。夢中になって遊ぶことを楽しんでいたリッコで

すが、ママの姿を見つけるとリッコはあっという間にポケットの中に飛び込んでにっこり。その笑顔からは「ママ、大好き！」というリッコの気持ちとママのぬくもりに包まれた安心感が伝わってきます。

子どもには皆必ず成長と共に色々なものに興味を持ち始め、少しずつ世界を広げていくという時期がやってきます。少しずつ周囲に目が向くようになり、同時に行動範囲も少しずつ広がっていきます。この絵本の主人公リッコの姿はまさにそんな時期の子どもの姿と重なります。沢山遊んで疲れた後はお母さんのもとで十分充電して、きっとまた楽しいことを見つけに行くことでしょう。そうしてお母さんと興味のあることの間を行ったり来たりしながら自信をつけ、お母さんとの距離をだんだんと広げていくのでしょうか。親子の絆と穏やかな温かさが感じられるそんな素敵な絵本です。

保育士 小島真由美

食育メモ『0、1、2歳の食具②』

前号でスプーン・フォーク(食具)の練習を始める目安をお話しました。目安はありますが、個人差は大きいです。そして、スプーンを持ち始めたらずいぐに上手に使えるようになるわけではありません。大抵のお子さんはスプーン(フォーク)の持ち方にも段階があります。はじめは掌全体でスプーンの柄を持つことが多いでしょう(写真①)。掌全体で持つてすくうことを手伝ってあげながら、上手に口へ運べるように支えてあげましょう。上手に口に運んで食べることができるようになったらペンを持つように親指、人差し指、中指の3点で支える持ち方(鉛筆を持つような持ち方)へ促していきましょう(写真②)。スプーンやフォークで上手に食べることができないと手づかみで食べてしまうこともあると思います。こぼしてしまうことも多いでしょう。それでも美味しく食べることが出来れば良いと思います。“一緒に食べると美味しい”ということ、自分で食べる意欲を育てていきましょう。

また、食具の使い方は、食事の時間だけで上手くなるわけでは有りません。遊びを通して、つまむ、つまんで出し入れするすくう、ひねる、重ねるなどの手の動きが促されます。例えば、すくう時に使う手首のひねりは、コマを回したり、ネジや容器の蓋を回して開ける動作と似ています。食事の技術を遊びながら育てていくことも良いですね。

参考・引用:「いただきます ごちそうさま」Vol.40、2012



写真①



写真②

健康ひとくちメモ「外遊びは楽しい」

暖かくなり、外遊びに適した気候になりました。歩き始めのお子さんも風を肌で感じ、お散歩など、外遊びを楽しむ良い時期です。外遊びは身体機能(運動機能、目の発達、耳の発達など)の発達だけではなく、心や社会性、認知能力など様々な発達に影響していると考えられています(幼児期運動指針より)。

1年ほど前になりますが、文部科学省より「幼児期運動指針」が出されました。この背景にはさまざまな社会環境の変化がありますが、身体を動かす機会の減少傾向が伺われ、結果的に幼児期からの多様な動きの獲得や体力・運動能力に影響していることから、運動習慣の基盤づくり、幼児期に必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力を培うことが目的です。ここで示す幼児とは3歳から6歳の小学校就学前のお子さんとし、「毎日、合計60分以上」身体を動かすことが望ましいことを目安としています。但し、時間だけが問題なのではなく、様々な遊びを中心としてお散歩やお手伝いなど、

多様な動きの経験が大切としています。必ずしも外遊びを限定しているわけではありませんが、外でなければできない“遊び”や“経験”がたくさんあるのではないのでしょうか。3歳未満のお子さんは、“運動習慣の基盤づくり”として、“身体を動かすことが楽しい”“と思える遊びをたくさんさせてあげたいです。

「幼児期運動指針」については、ほっとれもんでもミニ育児講座で取り上げさせていただき、パンフレットも紹介させて頂いています。まだまだ体調を崩しやすかったり、寒い日や暑い日などは、長時間外で遊ぶことが難しい年齢だと思えますが、外遊びはお子さんにとって心身の発達を促す大切な遊びのひとつです。また、大人もお出かけをすることによって楽しい気分になったり、ちょっとした気分転換ができることと思います。赤ちゃんや子どもと同じです。無理のない範囲で、お子さんと一緒に外の空気に触れてみましょう。

保健師 山室八潮

引用・参考:幼児期運動指針(文部科学省HP) http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319192.htm